

# ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティの概要 (スマートウェルネスシティ協議会)

## ■ 事業のセールスポイント

複数分野に渡るサービスの**官民データ（一部民間有料データも含む）をプラットフォームを介して連携・流通**を促進させ、都市政策・まちづくりや移動サービスを高度化・効率化し、**回遊・移動促進によるまちの賑わい向上や健康寿命延伸**を実現。これらの**プラットフォームを持続的に活用するための事業・運営モデル**を構築する。

## ■ 対象区域の概要

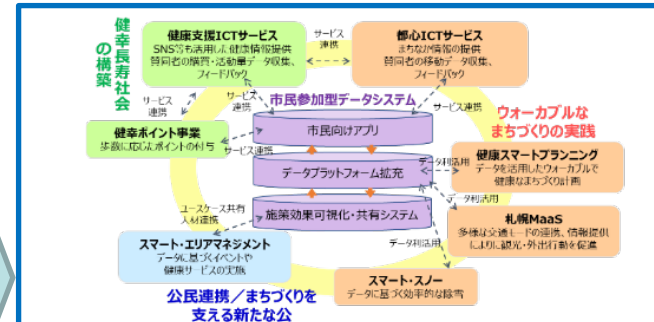
- 札幌市（都心部・郊外）
- 面積：約1,121 km<sup>2</sup>（札幌市全域）
- 人口：約197万人（札幌市全域）



## ■ 都市の課題

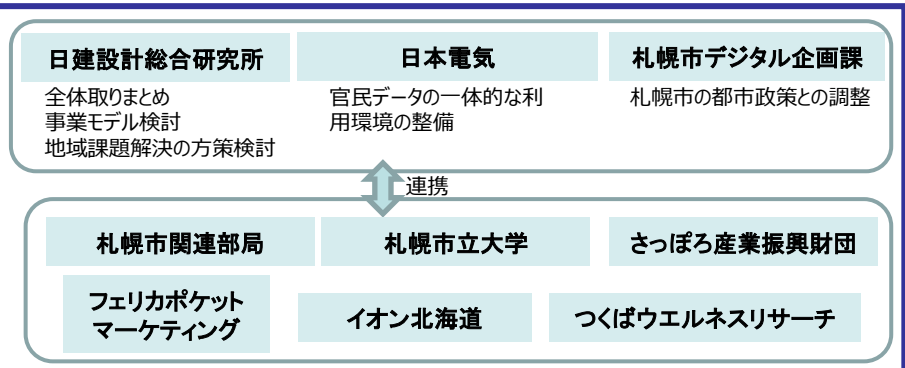
- 1 健康寿命の延伸
  - ・ 政令市において下位となっている健康寿命の延伸
  - ・ 健康寿命延伸に向けた、徒歩・公共交通中心の健康的なライフスタイルの構築
- 2 賑わいの創出・身体活動の推進
  - ・ 都心部では、地下・地上を含めた回遊性の向上に努めていくことが必要
  - ・ 郊外部では、身体活動を促進する空間の創出が必要

## ■ 解決方法



ウォーカブルなまちづくり、健康長寿社会、市民参加型データシステムの構築を進める**10の取組メニュー**を推進。特に、本年度では、データシステムの根幹である「**プラットフォーム拡充**」に係る取組を展開。これにより、データに基づく、まちづくりを進めるための**システム・体制の構築**を目指す

## ■ 運営体制



## ■ KPI(目標)

賑わい・地域経済、交通・移動、健康、データ利活用の観点から達成目標とKPIを設定する

	達成目標	定量指標
賑わい・地域経済	地域の来訪者の増加、回遊性の向上	歩行者量、地域平均滞在時間
	多様な観光施設へのアクセシビリティの向上	各施設来訪者数、消費額
交通・移動	公共交通中心のライフスタイルの実現	公共交通分担率、外出率
健康	歩行・身体活動の促進・習慣化	平均歩数・歩行時間、歩行頻度
データ利活用	データ利活用の促進・イノベーションの促進	データ利活用件数、新規事業創出件数

# ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ

## ■本実行計画の概要

- ・ 本事業では「健康をきっかけとした市民参加型のデータシステム」の構築を目指す
- ・ 市民の協力により得られたデータを積極的に活用しながら、健康行動や回遊行動を促進し、健康寿命延伸、まちなのにぎわい創出を実現することを目標とする

## 実施内容

都心部の「魅力的な賑わい空間の創出」、郊外の「歩いて暮らせる健康的な都市空間の構築」を実現

### 取組メニュー

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| ① 健幸ポイント事業      | ⑥ スマート・スノー        |
| ② 健康支援ICTサービス   | ⑦ スマート・エリアマネジメント  |
| ③ 都心ICTサービス     | ⑧ 市民向けアプリ         |
| ④ 健幸スマート・プランニング | ⑨ データ・プラットフォームの拡充 |
| ⑤ 札幌MaaS        | ⑩ 施策効果可視化・共有システム  |

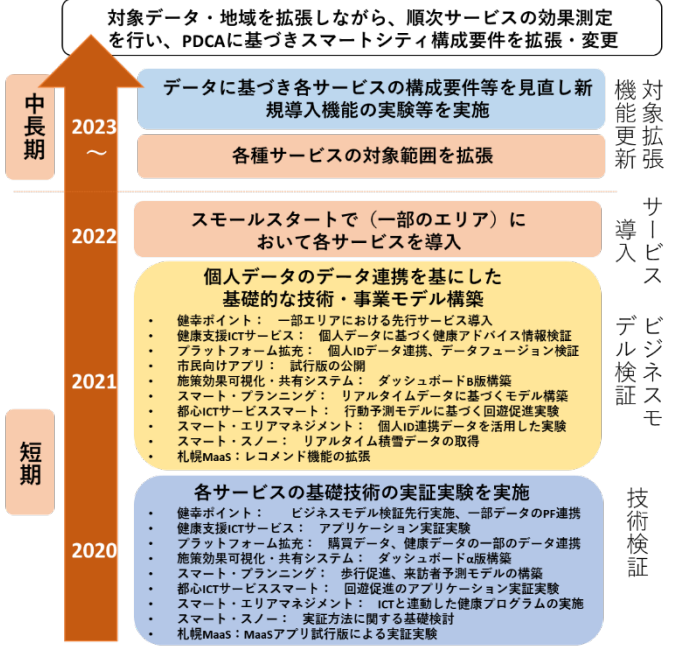
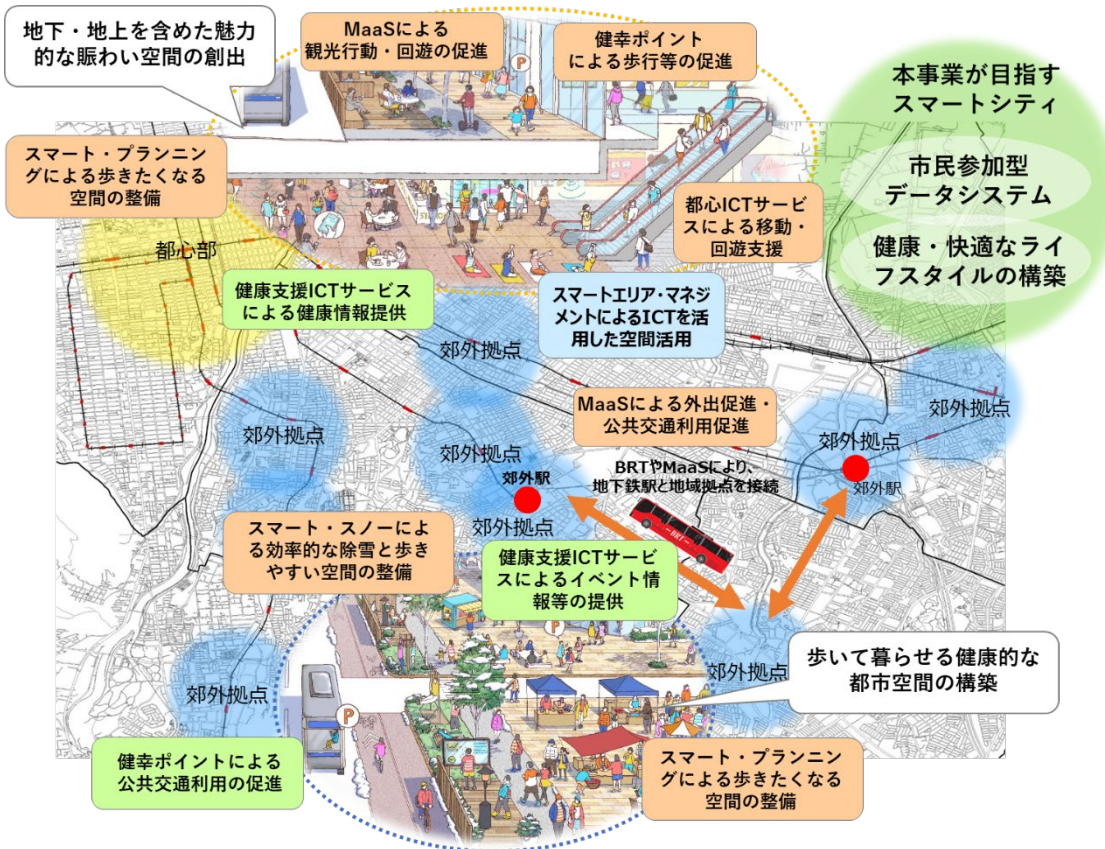
## スケジュール

### ●短期の取組内容

- ・ 2021年度：官民連携のビジネスモデル検証
- ・ 2022年度：スモールスタートで実サービスを導入を目指す

### ●中長期の取組内容

- ・ 対象範囲を拡張、各サービスの構成要件等の見直し





# これまで実施した実証実験の概要 ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ

- 国が勧めるREST+JSONが実現可能なNGSI準拠のAPIによって、多様な企業によるデータ連携が容易に可能（仮想のデータ基盤が低コストで構築可能）なデータ連携基盤を構築
- 「API＝商品」とする先進的なデータ取引所形式の連携基盤を構築するとともに、利用者候補である事業者へのアンケートやヒアリングを通して持続的な事業モデルの可能性について検討する。

## ■ 実証実験の内容

### 実証①：まちづくりに係る官民データの一体的な利用環境の整備

- 「多様な民間のデータを収集・連携する仕組み」の構築に向けて、データ提供者へデータ販売費を還元できる「データ取引所」形式のデータ連携基盤を構築し、その有効性を検証する
- その際、一つデータプラットフォームにすべてのデータを格納するのではなく、多様な主体が保有するデータを効率的に運用するため、分散型のデータ連携基盤の構築を目指す。具体的には、データそのものではなく、データの「API」を商品としてやり取りする方式を採用する

### 実証②：データ利用環境の持続的な利活用・運営に向けた事業モデルの検証

- 「データ取引所」を持続的に運用していくためには、採算性・有用性等の観点を考慮し、事業モデルとして成立している必要
- 「実証 1」で構築する「データ取引所」のシステムをベースに、利用者候補として想定される事業者・団体ヒアリング・アンケートを通して、当該システムに関するニーズを抽出するとともに、運営に係る課題・目標を整理する。

## ■ 実証実験で得られた成果・知見

### ①まちづくりに係る官民データの一体的な利用環境の整備

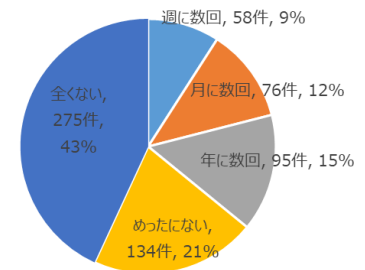
- 成果 1：「データ取引市場」試験版の構築
  - ✓ API経由でデータの公開・取得が可能なシステムの構築（APIカタログ、API実行・データ取得、ユーザー登録機能）等の実装
- 成果 2：NGSIによるオープンデータの公開
  - ✓ 地下鉄乗車人員データ、区別人口等をNGSI形式（国推奨のAPI規格）により公開（公開データは順次拡張予定）
- 成果 3：課題抽出
  - ✓ データ購入者の用途等を制限するルール・規約の必要性等を抽出



### ②データ利用環境の持続的な利活用・運営に向けた事業モデルの検証

- 成果 1：事業者アンケートにより、市の事業者の**データ購入頻度**（年に数回以上が36%）や**手数料・利用料の支払い意思額**（データ販売額の10%程度までが多数）を把握
- 成果 2：事業者ヒアリングにより、**具体的なデータ提供・販売のニーズ**（自動車の走行データ、個人の消費状況データ等）や、**まちづくりにおける地域団体との連携可能性**（共同でのイベント実施等）を抽出

事業者アンケートにおける年間のデータ購入頻度回答



# これまで実施した実証実験の概要

## ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ

- 国が勧めるREST+JSONが実現可能なNGSI準拠のAPIによって、多様な企業によるデータ連携が容易に可能（仮想のデータ基盤が低コストで構築可能）なデータ連携基盤を構築
- 「API＝商品」とする先進的なデータ取引所形式の連携基盤を構築するとともに、利用者候補である事業者へのアンケートやヒアリングを通して持続的な事業モデルの可能性について検討する。

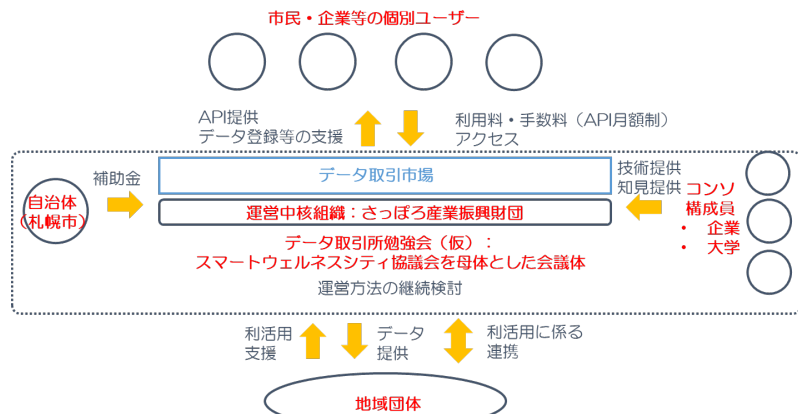
### ■ 実証実験で得られた課題

#### ① データ利用環境のシステムに関する主要な課題

- サービス成立のための要件
  - ✓ 提供するデータが正当な目的で利用されるかどうかの確認を行うため、規約による用途の制限やデータ購入者の信頼性の確認などの仕組みが必要になる
  - ✓ データの品質保証や価格の妥当性検証の仕組みが必要
- サービスの有用性向上のための要件
  - ✓ APIによるデータ提供のための技術的支援サービスの必要性
  - ✓ データ利活用（分析等）のコンサルティングサービスの必要性

#### ② データ利用環境の事業モデルの課題

- ✓ データ取引市場開設初期では、利用料等による収益確保が難しく行政からの補助に基づく事業モデルが想定される
- ✓ 当面は下記に示す体制（案）のもと、継続的に運営手法について議論するとともに、地域団体との連携方法について検討する



### ■ 今後の取組: スケジュール

#### 【ロードマップの記載内容】

##### ● 短期の取組内容

- ・2021年度：ビジネスモデル検証（一部の費用に、民間資本等を活用した検証を実施）
- ・2022年度：サービス・システム実装（スモールスタートで実サービスを導入）を目指す

##### ● 中長期の取組内容

- ・対象範囲を拡張、各サービスの構成要件等の見直し

#### 【直近の取り組み内容（案）】

##### ● データ取引市場のシステムアップデート

- ✓ データ連携先の随時拡充・支払いプランの拡充等
- ✓ API利活用のチュートリアル、データ利活用事例の紹介等の利便性向上のための付帯的機能の追加

##### ● データ取引市場の運営モデル

- ✓ 行政補助によるサービスのスタート支援
- ✓ 協議会・勉強会等における規約・機能等に関する継続検討

##### ● 関連する取り組みの展開

- ✓ データ利活用促進のための地域連携の検討（イベント実施等によるデータ取引市場の利活用の機運醸成と手法の具体化）
- ✓ 事業モデル成立に向けたユーザー数・陳列データの拡充
- ✓ 関連するスマートシティやまちづくりの取り組みと連携した、各種施策の高度化・効率化（さっぽろ圏公式ポイントアプリとの連携等）